

はじめに

「新たな社会の在り方：Society5.0」「コロナ禍」……など、急激に変化する時代を見据え、私たち教師には今、どのような教育が求められているのでしょうか。

2020年11月13日に行われた、中央教育審議会・初等中等教育分科会・新しい時代の初等中等教育の在り方第18回特別部会では、従来の日本型学校教育の成果・課題を整理し、新たな動きへと踏み出す方向性が示されています（『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（中間まとめ）【概要】～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～）。

そして、本書のテーマである「特別支援教育」についても、第Ⅱ部各論「4. 新時代の特別支援教育の在り方について」の中で、次のように示されています。以下に、一部を抜粋します（太字は筆者）。

（3）特別支援教育を担う教師の専門性向上

- ①全ての教師に求められる**特別支援教育に関する専門性**
 - ・全ての教師が**障害の特性等に関する理解や特別支援教育に関する基礎的な知識**が必要

特別支援教育の実践・研究を専門とする私は今、「教師の専門性向上」に向け、少しでも役に立ちたいという思いを強くもっています。

養護学校教師としての経験に加え、これまで全国各地の学校を訪問・参観して出会った素晴らしい実践を整理して、現場の先生方にお伝えしたい……。この思いを胸に、研修や講演活動を行ったり、本を執筆したりすることが、私のライフワークと言えます。

*

本書は、そうした私の思いを形にしたものの一つです。発達障害の診断のある、あるいはその傾向のある子等の「気になる子」が、笑顔でさまざまな教育活動に取り組み、その存在がそこにあることが当たり前のように「溶け込んでいる」学級があります。各地のそうした「成功事例」を丁寧に紐解くと、そこには、みなさんにぜひ、試していただきたい考え方やアプローチ法があることに気づきます。それらを、「特別支援教育」に加え、私のもう一つの専門である「教育カウンセリング」のフィルターを通して「10の理論・10の技法」に整理したものが本書の骨子となっています。

*

本書は、みなさんが、それぞれの学校・学級で「新時代の特別支援教育」を展開する上での「おとも」としてご活用いただけるよう、具体的な事例やイラストを多く取り入れることを心がけました。本書の事例に触れることで、みなさんが、ご自身の学級や、そこにいる「気になる子」を思い出し、その子が学級に溶け込む様子までイメージできたならば、著者としてこれほどうれしいことはありません。

日々、子どもたちにかかわるみなさんが、よりよい指導・支援に向けた「一歩」を踏み出す際、その「背中の一押し」になれば……と応援するのが、本書『「気になる子」が通常学級に溶け込む！ 10の理論・10の技法』です。私の思いを載せた理論・技法をご活用いただき、学級がすべての子どもの笑顔であふれるとともに、そこに優しさに包まれた「文化」が生まれることを心から願っています。

*

本書は、

第Ⅰ部 なぜ今、通常学級に特別支援教育の視点が必要なのか

第Ⅱ部 「気になる子」が通常学級に溶け込む学級づくり、環境づくり

第Ⅲ部 全国の実践事例と子どもを育む学校存在の意義

の三部により構成しています。

どうぞ、みなさん自身が「気になる」ところからお読みください。どの章も、みなさんを応援する気持ちを込めて書き綴りました。私の思いが届きますよう……。

曾山 和彦